

鑑賞領域において、自分の思いや考えを生かして 聴き深めることができる児童の育成

—「曲から感じ取ったことの言語化」と「音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較」を通して—

前橋市立上川淵小学校 岡田 麻未

I 研究の背景

前橋市では、「音楽のよさや面白さを味わわせる指導の工夫」を音楽科の指導の努力点として掲げている。具体として、音楽を形づくっている要素をよりどころして、児童が音や音楽と自己のイメージや感情を関連付けて考えられるよう、意図的な発問や他者と交流する活動の設定を挙げている。音楽を形づくっている要素とその働きに関わりについて言葉や体の動きで表したり他者と交流したりすることを通して、音楽のよさや面白さを見いだすことができれば、自分の思いや考えを生かして音楽を聴き深めていることにつながると考える。

本校の児童の多くは、表現の活動においては、曲の音楽的特徴から、自分の思いをもって、表現を工夫する姿が見られる。一方で、筆者の指導を振り返ってみると、鑑賞の活動においては、曲の音楽的特徴をしっかりと聴き取れるようにすることばかりを重視し、児童一人一人が感じ取ったことを言語化したり、聴き取ったことに対する自分の思いや考えをもてるようにしたりすることに至っていなかった。また、音楽を形づくっている要素とその働きに関わりについて児童が考えを深めるまでに至らず、「曲の特徴が〇〇だったから、私は～を思い浮かべた」のような一定の型に当てはめることを求める鑑賞の授業を展開することが多かった。

そこで、児童一人一人が曲から感じ取ったことを明確にする「曲から感じ取ったことの言語化」と、実際に音や音楽に触れて「音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較」を鑑賞の活動に取り入れることで、自分の思いや考えを生かして聴き深めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の目的と方法

1 目的

音楽科の鑑賞領域において、「曲から感じ取ったことの言語化」と「音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較」を通して、自分の思いや考えを生かして聴き深めることができる児童の育成を目指す。

2 方法

【手立て1】曲から感じ取ったことの言語化

児童が自分なりの表し方で、曲から感じ取ったことを表出できるように、題材の初めに、曲を十分に感じ取る時間を確保し、感じ取ったことを言葉だけでなく、体の動き、絵、図などで自由に表す場を設定する。そして、新たな見方や気づきを得るとともに曲へのイメージや感情をより膨らませることができるよう、曲から感じ取ったことを伝え

合う活動を取り入れる。その後、伝え合ったことを基に、それぞれが曲から感じ取ったことを明確にできるようにするために、感じ取ったことを言語化する場を設定する。このように曲との出会いで感じ取ったことを、他者と交流しながら徐々に明確にしていき、そこを出発点に、鑑賞の活動を展開できるようにする。

【手立て2】音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較

音楽を形づくっている要素の特徴に応じて、音や音楽に触れる「比較」を取り入れる。音楽を形づくっている要素の特徴によって比較の方法を、異なる2曲の比較、同一曲内の比較（曲の中の要素の働きが対照的な部分の比較）、同一曲での比較①（本来の演奏と、音色やリズムなど特定の要素を変化させた演奏の比較）、同一曲での比較②（本来の演奏＜ある版＞と特定の楽器を除いた演奏＜ない版＞の比較）の4通りに分ける。比較を行う場面では、児童が音や音楽を通して、要素の働きを実感できるように、旋律を口ずさんだり、リズムを打ってみたり、実際に演奏してみたりするといった活動も取り入れる。そして、題材の終末で、その活動を通して得た思いや考えを生かして、一人一人が感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素の働きとを結び付けて聴き深めたことを伝え合う言語活動を設定する。

III 実践

勤務校第5学年2学級（53名）を対象に、音楽科「音楽のききどころ『つるぎのまい』」の鑑賞の学習において、授業実践を行った。

1 曲から感じ取ったことを言語化していく様子

第1時において、「つるぎのまい」を十分に感じ取ることができるようにするために、曲全体を何度も聴いて、感じ取ったことを自由に表す場を設定した。自分が表出しやすい方法を選択して表現してよいこととし、児童全員が音楽室の思い思いの場所で各自が選んだ方法で感じ取ったことを表し始めた（図1・資料1）。じっくりと曲を聴きながら言葉と絵で表現した児童（図2）や絵のみで表現した児童（図3）の姿が見られた。また、音楽室の後方では、曲を聴きながらずっと体を動かしている児童の姿が見られた。その児童になぜその動きをしているのかと教師がインタビューしたところ、「曲を聴いて、自分は言葉では伝えきれない程の焦りを感じたし、焦っている様子は、動いた方が表せる」と答えた。その児童の体の動きに込められた思いを全員で共有し、体の動きを真似する時間を設けた。次に、言葉や絵、図など、様々な表し方をしている児童を全体に紹介した後、曲を聴いてどう感じたのかと友達とインタビューし合う活動を行った。そして、改めて曲を聴き、友達とのやりとりからイメージや感情を膨らませ明確になった自身の感じ取ったことをワークシートに記述した。

ワークシートは、題材を通して、児童が思いや考え、気づきを記入し、感じ取ったことと聴き取ったことの関わりを捉えることができるようにした（資料4）。なお、一人一人が曲から



図1 感じ取ったことを自由に表す様子

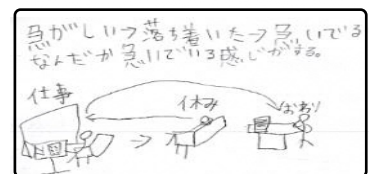


図2 児童が表現した言葉と絵

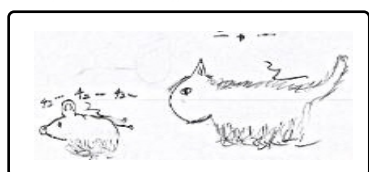


図3 児童が表現した絵

感じ取ったことを基に次時の鑑賞の授業を展開できるように、記述したものを短冊にして、全員分を黒板に掲示した（資料3）。

2 音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較の活動

第2時では、自分が感じ取ったことは、曲のどの部分からなのかを、聴き取ったことや考えを出し合う時間を設けた。約9割の児童が、曲から感じ取ったことには、速度が関わっていると考えた。その半数が「木琴の旋律は速くて、途中で遅くなっていた」と考えたため、木琴の旋律に着目して聴くよう促した。次に、全員で指揮や拍打ちをして、同一曲内で速度の比較をすることで、速度の変化がないことに気付いた。さらに、木琴の旋律が速く感じる理由が何によるものなのかを見付けていくために、旋律を口ずさんだり、リズムを手で叩いたりする活動に加えて、卓上木琴で演奏する活動を行った（図4）。

トロンボーンの合いの手の働きに着目するために、「途中で聴こえたタァ〜ラ〜から応援している様子を想像した」など、感じ取ったことに合いの手が関係しているという児童の発言や、合いの手の部分を体で表していた児童の動きを取り上げた。ここで、合いの手の働きが生み出すよさや面白さを感じられるようにするために、児童が知っている「幸せなら手をたたこう」の合いの手がくない版>を、全員で歌う活動を行った。その後「つるぎのまい」でも、合いの手がくない版>を聴取し、「<ある版>と同じことを感じたか」と問いかけることで、本来の演奏<ある版>と比較して考えられるようにした。最後に、「つるぎのまい」のティンパニがくない版>を聴く時間を取ったことによって、児童が感じ取った違和感を基に、ティンパニのリズムの働きに気付くことができた。これらの比較の活動から、児童が実感した音楽を形づくっている要素の働きと曲から感じ取ったことを結び付けるために、題材の終末で「音楽コメンテーターになって『つるぎのまい』を紹介しよう」という言語活動を設定した。



図4 卓上木琴で演奏する様子

IV 結果と考察

(1) 「曲から感じ取ったことの言語化」における児童の様子から

児童は様々な方法で感じ取ったことを、自信をもって友達と見せ合ったり伝え合ったりして自由に表すことが分かった（表1 波線）。互いに共有する中で、多くのやり取りから新たな気付きが生まれ、さらに楽しみながら、曲のイメージを膨らませることができたことがうかがえる（表1 下線）。伝え合う活動の後にワークシートに記述する時間を設けたことで、児童は友達とのやりとりを生かして、曲から感じ取ったことを記述することができた。この言語化によって、児童にとっては「つるぎのまい」を聴いて感じ取ったことが明確になり、鑑賞の活動の出発点とすることができた。

表1 第1時の児童の振り返り

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・曲を聴いて、感じたことのいろいろな表現方法があると知ったから言葉だけでは表現できないことを表現できた。・絵で表すことで、<u>曲から感じたことを表しやすかった</u>。友達に絵を見てもらいながら説明したら、<u>想像したことが伝えられた</u>。・動いてみたら曲の面白さが思い切り表せた。・友達の真似をしておどってみたら、<u>聴くだけよりよく曲を感じる</u>ことができたし、<u>想像力がふくらんでもっと曲が楽しくなった</u>。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) 「音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較」における児童の様子から

比較する活動以前は、「速いから」という表層的な捉え方に留まっていたが、木琴のリズムを実際に手で打ったり、卓上木琴で演奏したりしたことで、曲を特徴付けるリズムの働きを、実感できた（表2下線部）。

トロンボーンの合いの手やティンパニがくない版>を聴いたときの違和感や本来の演奏との違いから、自身の感じ取ったことには、音楽を形づくっている要素の働きが関わっていると実感することができたと考えられる（表3・表4）。

さらに、教師とのやり取りから、<くない版>を聴いた時に、本来の演奏で感じ取ったことと同様のことは感じないと捉えることができたのは、音楽を形づくっている要素の働きの大切さに気付くことができたからだ（表5）。

(3) 言語活動の児童の記述から

表6、表7は、児童が音楽コメンテーターになって「つるぎのまい」を紹介した記述である。聴き深めたことを伝え合う言語活動を設定したことで、児童は曲から感じ取ったこと（表6・7下線部）と、音楽を形づくっている要素の働き（表6・7二重線部）を結び付けることができた。音楽を形づくっている要素が曲のよさとして自分の中で価値付けられたことにより、自分の思いや考えを生かして、音楽のよさや面白さを見いだすことができた（表6・7点線部）。

表2 卓上木琴で演奏してみた振り返り

・実際にたたくと、リズムが細かくて難しかったから、ただ速いということだけではなく、このリズムが速さのもとなんだとわかった。
・聴いているときはリズムのことはわからなくて、ただスピードが速いのだと思ったけれど、演奏してみたらリズムの細かさに気付けた。

表3 <くない版>を聴取した児童の反応

○トロンボーンの合いの手が<くない版>を聴取した児童の反応
「切ない」「飛び跳ねられない」「くぼみができた感じ」
「物足りない」「大事なものを忘れた感じ」
○ティンパニが<くない版>を聴取したときの児童の反応
「夜中に鳥が鳴いている場面になった」「さびしい」
「リズムカルな感じをこわしている」「激しくなくなった」

表4 第2時の振り返りの記述

一つの音（ティンパニ）を取ってしまっただけで、まるでちがう音楽になってしまった。私はこのリズムがくり返されていたから、あせて準備している場面がうかんだと分かった。

表5 <ある版><くない版>との感じ方の違いについてのやり取り

教師： <くない版>を聴いたとき、<ある版>と同じことを思い浮かべた？
C1：一つなくすだけで、雰囲気がすごく変わった。感じたことが最初と変わってしまった。
C2：なくしたら縁の下の力持ちだったことがわかった。

表6 A児の「音楽コメンテーターになって『つるぎのまい』を紹介しよう」

ティンパニの激しいリズムから始まり、木琴の細かいリズムの旋律は、まるで何が追われて逃げ回っているよう。トロンボーンの合いの手は、さらに音楽を盛り上げます。次々といろいろな楽器が登場し、にぎやかな音楽なので、元気が出て、私はそこが好きです！

表7 B児の「音楽コメンテーターになって『つるぎのまい』を紹介しよう」

ティンパニで迫力を出し、木琴でスピード感を出す。この曲の迫力とスピード感で、自分は何でもできるような気持ちになってきます！前向きになれるこの曲を、ぜひ聞いてみてください！

V 研究のまとめ

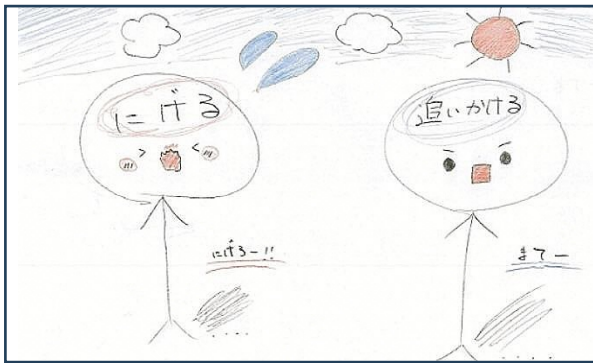
1 成果

児童一人一人が曲から感じ取ったことを出発点とし、音楽を形づくっている要素の働きと結び付けたことは、自分の思いや考えを生かして、曲全体を聴き深めることにつながった。そして、児童が自分にとっての音楽のよさや面白さを見だし、楽しみながら鑑賞の活動に取り組むことができた。

2 課題と今後の展望

本研究は高学年での実践であったが、言語活動や音楽を形づくっている要素の働きを実感するための活動について、発達段階に応じて内容を工夫し、低学年から取り入れることが必要である。

【資料1】曲を聴いて感じ取ったことを表現するために、選択した方法

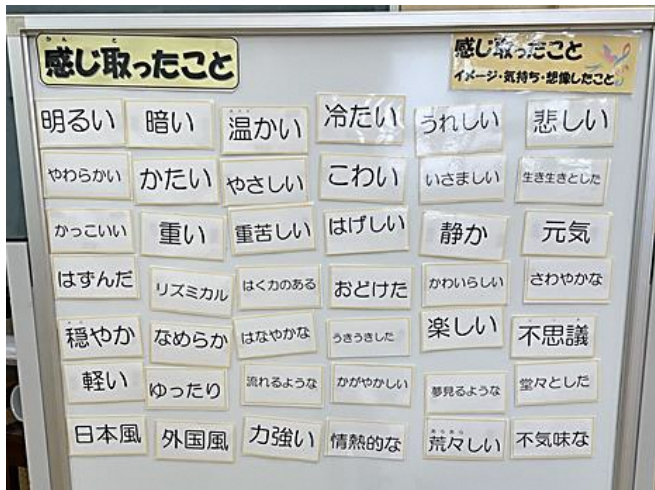


児童が表現した絵とセリフ

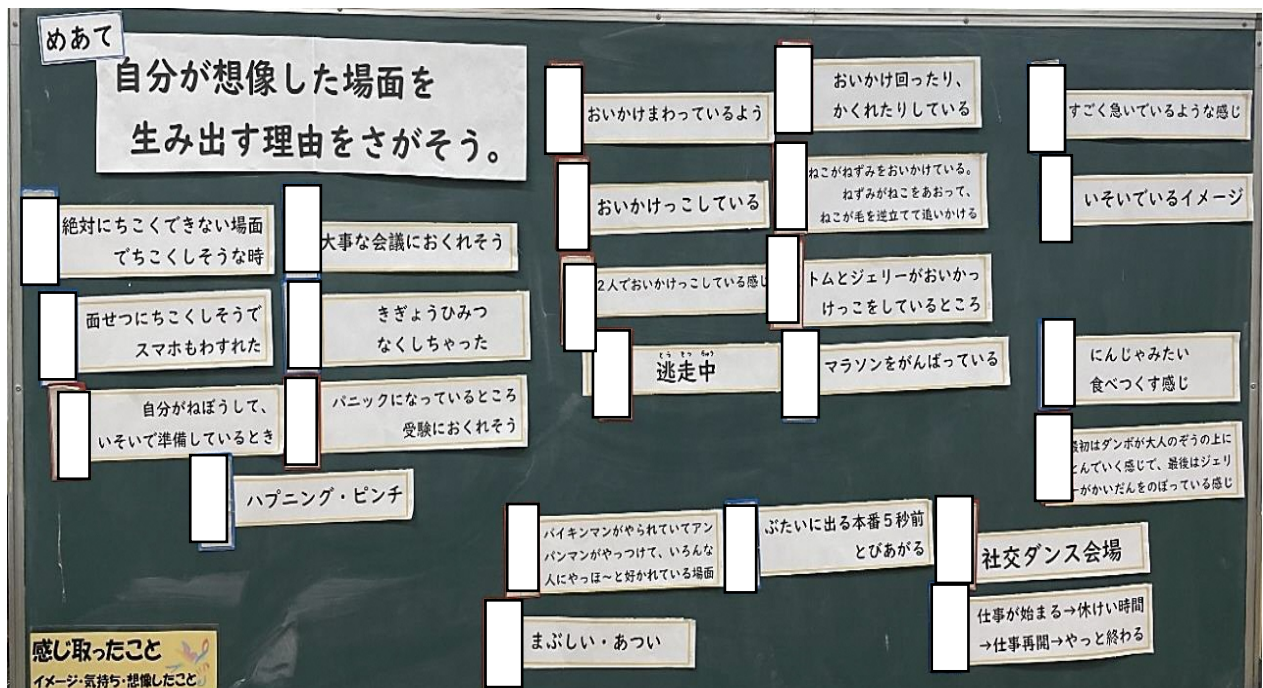


体の動きで表現する児童

【資料2】掲示物「感じ取ったことを表す言葉」と「音楽を形づくっている要素」



【資料3】一人一人が感じ取ったことの短冊



【資料4】児童のワークシート

つるぎのまい かんしょうシート

曲をきいて、自分が感じ取り、自由に表したことを、
友達にインタビューしたり、いっしょに体を動かしてみたりして…

① 想像した場面やイメージ、気分を表してみよう。

ねこがねずみを追いかけている
ねずみがねこをおおって、ねこが毛を
逆出して追いかける

② なぜ? どんなどころからそう想像した?

曲が速くて、回る感じがしたから
追いついていないように、たこごんの楽器
が順番に演奏しているから、
追いかけている感じがした。

③ 気付いたこと、考えたこと

テニパニがあるからせんりつに、重い音と軽い音があるって、いいかんじに
重なっていた。だから、音楽がより速いかんじにきこえた。木琴は、とてもリズム
が糸田かく 速さは変わってないのに、とちゅうより速いように感じた。
合の手があるからそあおりを感じた(合の手がないからそあおりはなかったから)

「感じ取ったこと」(上図①)と「聴き取ったこと」(上図②)との関わりが捉えやすいように左右に並べて構成した。音楽を形づくっている要素の働きについて実感したことを基に、上図③の「気付いたこと・考えたこと」を記述できるようにした。

児童が感じ取ったことについて様々な方法で自由に表現し、友達と伝え合う活動を終えた場面でワークシートを配付することで、児童が感じ取ったことを明確にしてから①の箇所を記入できるようにした。

②の箇所を記入する際は、児童一人一人が感じ取った①の内容を出発点とすることで、自分が感じ取ったことは音楽のどんな働きによるものなのかを、一人一人が考えられるようにした。

③の箇所は、「音楽を形づくっている要素の働きを実感するための比較の活動」が終わった後に記入した。

〈引用・参考資料〉

白井学 編著(2023)中学校音楽の「常時活動」アイデア大全 明治図書
高倉弘光 編著(2019)音楽授業の「見方・考え方」成功の指導スキル&題材アイデア 明治図書
前橋市教育委員会(2024)令和6年度 前橋市各教科等指導の努力点
文部科学省(2018)小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 東洋館出版社
NHK for School おんがくブラボー [鑑賞編] 音楽の“しかけ”をさぐる!
https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005230010_00000

【教科用図書】

教育出版 音楽のおくりもの5 令和5年検定済